

全科ドリルの王様 **2** 年 **答え**

答えに  
つかわれる  
きごう

• かくじゅんばんがきまっています。  
れい『㉞、㉟』は、㉞、㉟のじゅんに答えていたら正かいです。

• どのじゅんばんでかいてもかまいません。  
れい『㉞、㉟』は、㉞、㉟でも㉟、㉞でも正かいです。

**算数**

**1 ひょうと グラフ** **2** ページ

1 ①㉞3 ②2 ③3

2 どうぶつの数しらべ

○			
○	○		○
○	○	○	○
○	○	○	○
ねこ	いぬ	たぬき	くま

- 2 ①みかん  
②4人  
③3人

→てびき 1 数えた絵に しるしをつけていくと、まちがいが少なくなります。

2 ①●の数がいちばん多いくだものが答えになります。

②1つの●が1人をあらわしています。●の数を数えて答えます。

③いちばん多いのはみかんで5人です。いちばん少ないのはりんごで2人です。ちがいはひき算でもとめることができるから、 $5-2=3$ で、3人です。

**2 時ごとと 時間** **3** ページ

- 1 ①10分 ②43分  
2 ①60 ②24  
③㉞12 ④12  
④午後  
3 ①午後4時15分 ②午後6時15分  
③午後5時45分  
4 5時間

→てびき 1 長いはりが何目もりうごいたかを考えます。

2 ②、③1日は24時間で、午前が12時間、午後が12時間です。

3 ①長いはりがひとまわりもどった時こくです。  
②長いはりがひとまわりすすんだ時こくです。  
③長いはりがひとまわりの半分すすんだ時こくです。

4 午前9時から正午までは3時間、正午から午後2時までは2時間なので、あわせて5時間です。

**3 たし算と ひき算** **4** ページ

- 1 ①㉞6 ②20 ③20 ④22  
⑤㉞2 ⑥13 ⑦13 ⑧15  
2 ①30 ②25  
③61 ④66  
⑤23 ⑥53  
3 しき  $32+9=41$  答え 41まい

→てびき 1 ①たされる数にあといくつたすと何十になるかを考えます。

- 2 ①25から5ふえるから、 $25+5=30$   
②6を1と5に分けて、19と1で20、20と5で25  
④70から4へるから66  
⑤31を30と1に分けます。30から8をひいて22、22と1で23
- 3 もらうとふえるから、たし算のしきでもとめます。

**4 たし算の ひっ算①** **5** ページ

1 ①46 ②67 ③88  
④29 ⑤48 ⑥69

2 ① 

	7	2
+	2	5
	9	7

 ② 

	3	0
+	4	1
	7	1

 ③ 

		6
+	5	2
	5	8

3 

16+21	17+42
34+45	30+55
42+17	21+16
55+30	45+34

4 しき  $55+32=87$  答え 87円

→てびき 1 一のくらいからじゅんに計算します。

2 ひっ算では、くらいはたてにそろえてかきます。

3 たされる数とたす数を入れかえて計算しても答えは同じになります。

4 あわせた数をもとめるので、 $55+32$  たし算のしきになります。

55
+32
87

### 5 たし算の ひっ算②

6 ページ

- 1 ① 72                      ② 92                      ③ 80  
          ④ 65                      ⑤ 71                      ⑥ 40

2 ㉞

3 (たしかめ)

	7	6
+	1	9
	9	5

	1	9
+	7	6
	9	5

4 しき  $27+28=55$                       答え 55人

→てびき 1 ①一のくらは、 $5+7=12$

十のくらは、くり上げた 1とで、  
 $1+4+2=7$

④一のくらは、 $7+8=15$

十のくらは、くり上げた 1とで、  
 $1+5=6$

⑥一のくらは、 $6+4=10$

十のくらは、くり上げた 1とで、  
 $1+3=4$

2 十のくらしに ちゅう目し、つぎに  
 一のくらしが くり上がるか しらべます。  
 たとえば、㉞の 十のくらしの 計算は  
 $4+1=5$

一のくらしの 計算は  $2+2=4$ で  
 くり上がらないので 60より 小さいです。

3 たし算では、たされる数と たす数を  
 入れかえても 答えが 同じに なる ことを  
 つかって 答えの たしかめを しましょう。

4 あわせた 数をもとめるので、たし算の  
 しきに なります。

$$\begin{array}{r} 27 \\ +28 \\ \hline 55 \end{array}$$

### 6 ひき算の ひっ算①

7 ページ

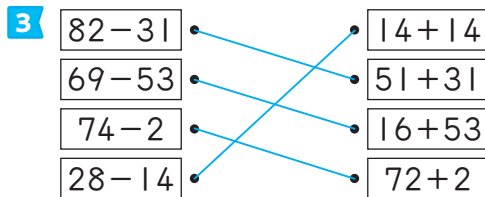
- 1 ① 42                      ② 22                      ③ 20  
          ④ 7                      ⑤ 52                      ⑥ 32

2

①	8	2
-	7	2
	1	0

②	6	4
-	3	0
	3	4

③	5	9
-		6
	5	3



4 しき  $75-13=62$                       答え 62ページ

→てびき 1 一のくらしから じゅんに  
 計算します。

2 たし算の ひっ算と 同じように くりを  
 たてに そろえて かきます。

3 答えに ひく数を たして、ひかれる数に  
 なるかを たしかめます。

4 のこりの 数をもとめるので、ひき算の  
 しきに なります。

### 7 ひき算の ひっ算②

8 ページ

- 1 ① 19                      ② 54                      ③ 22  
          ④ 8                      ⑤ 59                      ⑥ 25

2 ① 〇                      ② 18

3 (たしかめ)

	7	6
-	5	8
	1	8

	1	8
+	5	8
	7	6

4 しき  $56-39=17$

答え お姉さんが 17こ 多く ひろった。

→てびき 1 一のくらしから ひけない ときは、  
 十のくらしから 1 くり下げて 計算します。

④一のくらしは、十のくらしから 1  
 くり下げて、 $11-3=8$

十のくらしは、1 くり下げたから、  
 $6-6=0$

十のくらしの 0は かきません。

2 ひき算では、答えに ひく数を たすと、  
 ひかれる数に なります。

①

$$\begin{array}{r} 19 \\ +63 \\ \hline 82 \end{array}$$

だから、正しいです。

②

$$\begin{array}{r} 19 \\ +36 \\ \hline 55 \end{array}$$

だから、まちがって います。

$$\begin{array}{r} 54 \\ -36 \\ \hline 18 \end{array}$$

です。

4 ちがいを もとめるので、ひき算の  
 しきに なります。

### 8 長さ

9 ページ

- 1 ① 6, 4                      ② 3, 8  
 2 ① 70                      ② 4  
          ③ 59                      ④ mm  
          ④ mm  
 3 (しょうりやく)  
 4 ① 9cm                      ② 9cm 3mm  
          ③ 4mm                      ④ 8cm 4mm

→てびき 2 ①~③ 1cm=10mmです。

3 ものさしを しっかりと おさえて  
 かきましょう。

4 同じ たんいの ところを 計算します。

9 100をこえる数① 10 ページ

- 1 ① 476  
② 113  
③ 240
- 2 ① 976  
② 500  
③ 370
- 3 ① ㉗4 ①3 ㉘8  
② 100  
③ 63
- 4 百のくらい…5  
十のくらい…6  
一のくらい…3

→てびき 1 ①かん字で かかれた <sup>かず</sup>数を数字で <sup>すうじ</sup>かくとき、四百七十六を <sup>よんだ</sup>まま「400706」として <sup>しまわ</sup>ないように、<sup>き</sup>気をつけましょう。

③一のくらいの 0を <sup>わす</sup>れないように <sup>しま</sup>しましょう。

2 ②10が 10こで 100なので、50こでは 500に <sup>な</sup>ります。

3 ③630を 600と 30に <sup>わ</sup>けて <sup>かんが</sup>考えます。600は 10を 60こ、30は 10を 3こ <sup>あ</sup>つめた <sup>数</sup>だから、<sup>あ</sup>わせて 63こです。

4 500は 100を 5こ、60は 10を 6こ、3は 1を 3こ <sup>あ</sup>つめた <sup>数</sup>だから、563の <sup>そ</sup>れぞれの <sup>く</sup>らいの <sup>数字</sup>は 5、6、3です。

10 100をこえる数② 11 ページ

- 1 ① ㉗977 ①985 ㉘993  
② ㉗650 ①720 ㉘810
- 2 ① > ② <  
③ < ④ >
- 3 ① 50  
② 95  
③ 50

→てびき 1 ①数の直線の <sup>かず</sup> |目もりは、|を <sup>あ</sup>らわして <sup>い</sup>ます。

②数の直線の |目もりは、10を <sup>あ</sup>らわして <sup>い</sup>ます。

2 百のくらいから <sup>じゆん</sup>に <sup>お</sup>おきさを <sup>くら</sup>べます。

3 ③わからない <sup>とき</sup>は <sup>数</sup>の直線を見 <sup>て</sup> <sup>かんが</sup>考えましょう。

11 100をこえる数の計算 12 ページ

- 1 ① 110 ② 120  
③ 50 ④ 90
- 2 しき  $80+30=110$  <sup>こた</sup>答え 110円
- 3 ① 600 ② 800  
③ 1000 ④ 100  
⑤ 500 ⑥ 300
- 4 しき  $1000-400=600$  <sup>こた</sup>答え 600円

→てびき 1 10が <sup>なん</sup>何こに <sup>なる</sup>かを <sup>かんが</sup>考えて、<sup>けい</sup>計算します。

- ①50は 10を 5こ、60は 10を 6こ <sup>あ</sup>つめた <sup>数</sup>だから  $5+6=11$ で 110
- ③120は 10を 12こ、70は 10を 7こ <sup>あ</sup>つめた <sup>数</sup>だから  $12-7=5$ で 50
- 2 <sup>あ</sup>わせた <sup>数</sup>を <sup>も</sup>とめるので、<sup>たし</sup>算の <sup>し</sup>きに <sup>な</sup>ります。
- 3 100が <sup>なん</sup>何こに <sup>なる</sup>かを <sup>かんが</sup>考えて、<sup>けい</sup>計算します。
- ③900は 100を 9こ、100は 100を 1こ <sup>あ</sup>つめた <sup>数</sup>だから  $9+1=10$ で 1000
- ⑥1000は 100を 10こ、700は 100を 7こ <sup>あ</sup>つめた <sup>数</sup>だから  $10-7=3$ で 300
- 4 のこりの <sup>数</sup>を <sup>も</sup>とめるので、<sup>ひ</sup>き算の <sup>し</sup>きに <sup>な</sup>ります。

12 かさ 13 ページ

- 1 ① 1, 2  
② 3  
③ 4  
④ 50
- 2 ① 60 ② 2000  
③ 700  
④ mL
- 3 ① 9L 3dL ② 3L  
③ 8L 3dL ④ 4L

→てびき 1 ④ 1dL=100mLだから、<sup>1</sup>目もりは 10mLです。

2 ② 1L=1000mLです。

3 <sup>お</sup>なじ <sup>た</sup>んいの <sup>と</sup>ころを <sup>けい</sup>計算します。

**13** たし算の ひっ算③ 14 ページ

- 1 ① 126      ② 139      ③ 119  
 ④ 118      ⑤ 151      ⑥ 101  
 ⑦ 100      ⑧ 119
- 2 ① 

	9	2
+	2	8
1	2	0

 ② 

	4	7
+	5	6
1	0	3

 ③ 

	7	7
+	2	5
1	0	2

3 しき  $49+72=121$       答え 121こ

→てびき 1 ①~④は 十のくらいに くり上がりがある ひっ算です。  
 ⑤~⑧は 一のくらいも 十のくらいも くり上がりがある ひっ算です。  
 ⑧一のくらいは、 $8+6+5=19$  十のくらいは、くり上げた 1とで、 $1+1+4+5=11$   
 2 ひっ算では、くらいは たてに そろえて かきます。  
 3 ぜんぶの 数を もとめるので、たし算の しきに なります。  
 一のくらいは、 $9+2=11$   
 十のくらいは、くり上げた 1とで、 $1+4+7=12$

	4	9
+	7	2
1	2	1

**14** ひき算の ひっ算③ 15 ページ

- 1 ① 84      ② 63      ③ 83  
 ④ 74      ⑤ 68      ⑥ 97  
 ⑦ 28      ⑧ 79
- 2 ① 

	1	4	8
-		8	5
		6	3

 ② 

	1	0	5
-		2	9
		7	6

3 しき  $100-78=22$       答え 22円

→てびき ひっ算の くり下がりの かき方は 学校で ならった しかたで かきましょう。  
 1 ④一のくらいは、十のくらいから くり下げて、 $12-8=4$  (れい)  
 十のくらいは、百のくらいから くり下げて、 $12-5=7$

1	2
-	5
7	4

⑦十のくらいから くり下げられないから (れい)  
 一のくらいは、百のくらいから くり下げて、 $13-5=8$

1	3
-	7
2	8

十のくらいは 9に なったから  $9-7=2$   
 2 ひっ算では、くらいは たてに そろえて かきます。  
 3 ひっ算で すると、

1	0	0
-	7	8
2	2	

**15** 3けたの 数の ひっ算 16 ページ

- 1 ① 462      ② 690      ③ 723  
 ④ 283      ⑤ 528      ⑥ 307  
 ⑦ 900      ⑧ 814
- 2 しき  $225+36=261$       答え 261こ  
 3 しき  $224-8=216$       答え 216まい

→てびき 1 ①一のくらいを たして、  
 $4+8=12$ 、十のくらいは くり上げた 1とで、 $1+2+3=6$   
 ⑤一のくらいは、十のくらいから くり下げて、 $11-3=8$  (れい)  
 十のくらいは、 $4-2=2$   
 百のくらいは そのまま

5	5	1
-	2	3
5	2	8

2 ひっ算で すると、

2	2	5
+	3	6
2	6	1

3 ひっ算で すると、

2	2	4
-		8
2	1	6

**16** しきと 計算 17 ページ

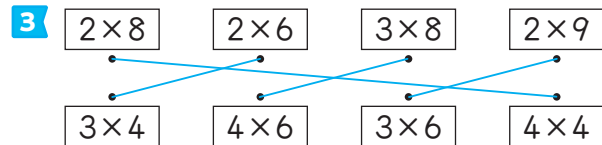
- 1 ① しき  $19+15+5=39$       答え 39わ  
 ② しき  $19+(15+5)=39$       答え 39わ
- 2 ① 48    ② 20    ③ 83    ④ 66
- 3 ① =    ② >    ③ <    ④ >

→てびき 1 ② ( )の 中を さきに 計算します。  
 3 ②  $80+30=110$  だから、 $80+30$ の ほうが 大きいです。

17 かけ算① 18 ページ

- 1 ① 21 ② 8 ③ 10 ④ 27 ⑤ 40  
⑥ 12 ⑦ 6 ⑧ 25 ⑨ 28 ⑩ 9

2 ㉔



4 しき  $4 \times 5 = 20$  答え 20cm

→てびき 1 2のだん、3のだん、4のだん、5のだんの九九をつかってもとめます。  
3 まず、それぞれの答えをもとめます。  
4 1つ分が4cmです。4cmの5つ分と考えます。

18 かけ算② 19 ページ

- 1 ① 18 ② 36 ③ 40 ④ 3 ⑤ 42  
⑥ 27 ⑦ 35 ⑧ 32 ⑨ 5 ⑩ 81

2 あ

3 しき  $8 \times 7 = 56$  答え 56円

4 しき  $6 \times 2 = 12$  答え 12cm

→てびき 1 1のだん、6のだん、7のだん、8のだん、9のだんの九九をつかってもとめます。  
3 1つ分が8円です。8円の7つ分と考えます。  
しきは  $8 \times 7$ で、8のだんの九九をつかってもとめます。  
4 6cmの2ばいは、6cmの2つ分のことです。  
しきは  $6 \times 2$ で、6のだんの九九をつかってもとめます。

19 かけ算をつかった もんだい 20 ページ

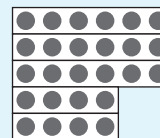
- 1 ① 21 ② 21 ③ 29 ④ 29

2 しき  $6 \times 4 = 24$   
 $24 - 5 = 19$  答え 19こ

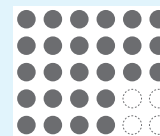
3 しき (れい)  $6 \times 3 = 18$   
 $4 \times 2 = 8$   
 $18 + 8 = 26$  答え 26こ

→てびき 2 まず、はこにはいつているチョコレートの数をもとめて、食べた数をひきます。

3 よこにみると、6こずつが3つと、4こずつが2つです。べつのとき方でも正かいです。



(べつのとき方のれい) たてにみると、5こずつが6れつ、ないところは2こずつが2れつです。



しき  $5 \times 6 = 30$   
 $2 \times 2 = 4$   
 $30 - 4 = 26$

20 三角形と 四角形 21 ページ

1 ① ちょう点...3 へん...3

② ちょう点...4 へん...4

2 三角形...① 四角形...か

3 ① (れい) ② (れい) ③ (れい)



→てびき 2 3本の直線でかこまれて いる形が 三角形、4本の直線でかこまれて いる形が 四角形です。

3 ①は ちょう点と 辺を 通る 直線を、②は 辺と 辺を 通る 直線を、③は ちょう点と ちょう点を 通る 直線を ひきます。  
答えと同じ ひき方でなくても 正かいです。

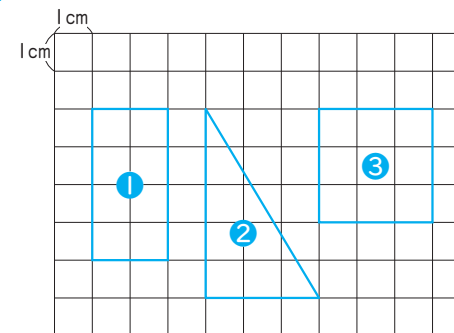
21 長方形と 正方形 22 ページ

1 ウ・オ

2 ① あ・き

② え・か

3 (れい)



→てびき 2 ③は、かどがみんな 直角に なっているから、長方形です。

①は、かどがみんな 直角で、辺の長さが みんな 同じに なっているから、正方形です。

3 ①は れいと たてと よこが ちがっても 正かいです。②は れいと 3cmと 5cmの いちが ちがっても 正かいです。

**22** 九九の きまり① 23  
ページ

- 1 ① 6  
② 3  
③ 8
- 2 





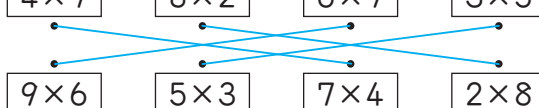










  

- 3 ①  $4 \times 9 \cdot 6 \times 6 \cdot 9 \times 4$   
②  $5 \times 9 \cdot 9 \times 5$

→てびき 1 かける数が 1 ふえると、かけ算の答えはかけられる数だけふえます。

2 かけられる数と かける数を 入れかえても、答えは同じです。

3 九九の ひょうから 答えを みつけます。

**23** 九九の きまり② 24  
ページ

- 1 ① 7  
② 1
- 2 ① 5 ② 5 ③ 55
- 3 ① ⑦ 11 ① 55  
② ⑦ 7 ① 35 ⑤ 55

- てびき 1 ① 答えは、3+4のだんと 同じになるので 7のだんです。  
② 答えは、9-8のだんと 同じになるので 1のだんです。
- 2 かける数が 1 ふえると、答えはかけられる数だけふえます。
- |        |   |      |    |    |
|--------|---|------|----|----|
|        |   | かける数 |    |    |
|        |   | 9    | 10 | 11 |
| かけられる数 | 5 | 45   | 50 | 55 |
- 3 ① かけられる数と かける数を 入れかえても、答えは 同じです。  
②  $4 \times 5 = 20$   
 $7 \times 5 = 35$

**24** 100cmを こえる 長さ 25  
ページ

- 1 ① 145  
② 3  
③ 1, 50  
④ 309
- 2 ① 107cm 1m70cm ② 2m 197cm  
( ) (○) (○) ( )
- 3 ① cm  
② m
- 4 ① 3m70cm ② 6m30cm  
③ 1m30cm ④ 6m90cm

→てびき 1 1m=100cmを もとに して考えます。

2 たんいを cmに なおして くらべます。  
①  $1\text{m}70\text{cm} = 170\text{cm}$   
②  $2\text{m} = 200\text{cm}$

3 それぞれの 長さを 思いうかべましょう。

4 同じ たんいの ところを 計算します。

**25** 1000を こえる 数① 26  
ページ

- 1 ① 2451  
② 1112  
③ 3060
- 2 ① 6823  
② 6314  
③ 3500
- 3 ① 7, 2, 3, 9  
② 70
- 4 千のくらい…2 百のくらい…3  
十のくらい…5 一のくらい…1

→てびき 1 ③ 百のくらいと 一のくらいの 0を わすれないように しましょう。

2 ① 千のくらいが 6、百のくらいが 8、十のくらいが 2、一のくらいが 3で、6823  
③ 100が 10こで 1000だから、30こでは、3000です。100が 5こで 500だから、100が 35こで 3500です。

3 ② 100が 10こで 1000だから、7000は 100を 70こ あつめた 数です。

4 2000は 1000を 2こ、300は 100を 3こ、50は 10を 5こ、1は 1を 1こ あつめた 数で ある ことから考えます。

**26** 1000をこえる数② 27  
ページ

- 1 ① 10000  
② 9900
- 2 ① 8300      ② 9000      ③ 9800
- 3 ① >  
② <  
③ >  
④ >
- 4 8610, 8160, 6810, 6018

→てびき 1 ② わからないときは、数の直線をかいて考えましょう。

- 2 1000を10こに分けてあるので、この数の直線の1目もりは100です。
- 3、4 上のくらの数からじゆんに、大きさをくらべましょう。  
千のくらの数の大きさをくらべて、それが同じときには、百のくらの数をくらべます。百のくらの数も同じときは、十のくらの数をくらべます。

**27** はこの形 28  
ページ

- 1 ① 面…6      ちょう点…8  
② 辺…12
- 2 ②
- 3 ① 20cm…4      8cm…4  
② 6cm…4  
③ 8





→てびき 1 ① はこの形の面、ちょう点、辺の数をしっかりたしかめましょう。

2 ② 面が長方形になっています。①のさいころの形の面は正方形になるから、答えは②です。

3 ① ① ひごの数がはこの形の辺の数です。同じ長さの辺がいくつあるか考えましょう。

② ねんど玉の数がちょう点の数です。

**28** 分数 29  
ページ

- 1 ①  $\frac{1}{2}$       ②  $\frac{1}{3}$
- 2 ① (れい)       ② (れい) 
- ③ (れい)       ④ (れい) 

- 3 ① 4  
② 4

→てびき 1 ① ① もとの大きさを2つに分けた1つ分の大きさです。

② もとの大きさを3つに分けた1つ分の大きさです。

2 ① ① れいと はんたいをぬっていても正かいです。

② ② ~④ れいとちがうところをぬっていても正かいです。

3 ③ もとの大きさの4つに分けた1つ分だから、4こです。

**29** 図をつかって考えよう① 30  
ページ

- 1 ① ① ⑦ 14      ① 9  
② しき  $14+9=23$       答え 23本
- 2 しき  $50-8=42$       答え 42こ
- 3 ① ① ① ① しき…①      ② ① ① ① しき…①

→てびき 1 ② ぜんぶの数をもとめるので、たし算で考えます。

2 ② くばった数は、はじめの数からのこりの数をひくと、もとめられます。

3 ① ① はじめの数と食べた数がわかっています。

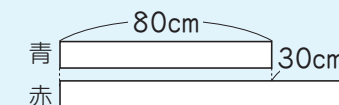
② ② 食べた数と のこりの数がわかっています。

**30** 図をつかって考えよう② 31  
ページ

- 1 ① ① 13  
② しき  $13-5=8$       答え 8点
- 2 しき  $80+30=110$       答え 110cm
- 3 ③ 13人

→てびき 1 ② ② お兄さんは、あなたさんより5点少ないことになるので、ひき算で

2 ② 赤いリボンは、青いリボンより30cm長いことになるので、たし算で



3 ③ ③ 前に5人、うしろに7人いるので、 $5+1+7=13$ で、ぜんぶで13人います。

31 しあげのテスト① 32 ページ

- 1) 青  
 2) 午前7時55分  
 3) ① 200                          ② 4  
 4) 7, 5  
 5) ① 40                                  ② 38  
     ③ 1000                              ④ 400  
 6) ① 

6	5
+	28
9	3

      ② 

5	3
-	22
3	1

      ③ 

7	4
-	39
3	5

→てびき 1) 1つの●が1人をあらわしています。●の数がいちばん多い色が答えになります。  
 2) 30分前の時こくは、長いほうがひとまわりの半分もどった時こくです。  
 3) わからないときは、数の直線をかいて考えましょう。  
 4) ものさしの目もりをよみとりましょう。  
 5) ① 38から2ふえると、40です。  
     ② 47を40と7に分けます。40から9をひいて31、31と7で38  
     ③ 800から200ふえると、1000です。  
     ④ 1000より600小さい数だから、400です。  
 6) ひっ算はたてにそろえて計算します。くり上がりやくり下がりに気をつけて計算しましょう。

32 しあげのテスト② 33 ページ

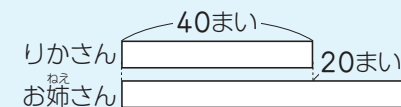
- 1) 1, 7  
 2) ① 102                          ② 89                          ③ 800  
 3) ① 20                                  ② 21  
     ③ 54                                  ④ 64  
 4) ① ㉠                                  ② ㉡  
 5) しき  $4 \times 6 = 24$                           答え 24 cm

→てびき 1) 1Lと1dLが7つ分で1L7dLです。  
 2) ① 一のくらは、 $3 + 9 = 12$   
 十のくらは、くり上げた1とで、 $1 + 3 + 6 = 10$   
     ② 一のくらは、十のくらいから(れい)  
 1くり下げて、 $12 - 3 = 9$                            $1 \overset{2}{3} 2$   
 十のくらは、百のくらいから  $\begin{array}{r} 12 \\ - 43 \\ \hline 89 \end{array}$   
 1くり下げて、 $12 - 4 = 8$                           89  
 4) ① 直角三角形は1つのかどが直角になっています。  
     ② 長方形は4つのかどが直角です。  
     ㉠は4つのかどが直角で、4つの辺の長さが同じだから、正方形です。  
 5) はばは、4cmの6つ分の長さになるから、かけ算のしきになります。 $4 \times 6 = 24$ で、24 cmです。

33 しあげのテスト③ 34 ページ

- 1) 7  
 2) 1m40cm (○)      114cm ( )  
 3) 9990  
 4) ㉠  
 5)  $\frac{1}{2}$   
 6) しき  $40 + 20 = 60$                           答え 60まい

→てびき 1) かける数が1ふえると、かけ算の答えはかけられる数だけふえます。  
 2) たんいをcmになおしてくらべます。1m=100cmだから、1m40cm=140cm  
 3) あと10で10000になる数を考えます。  
 わからないときは数の直線をかいて考えましょう。  
 4) 面の形がすべて正方形だから、㉠のようなさいころの形ができます。  
 5) もとの大きさを2つに分けた1つ分の大きさです。  
 6) 図をかいて、考えましょう。



お姉さんのシールの数は、りかさんより20まい多いから、しきは $40 + 20 = 60$ で、60まいになります。



生活

1 2年生に なったよ 35 ページ

- 1 (しょうりやく)  
2 ア・ウ

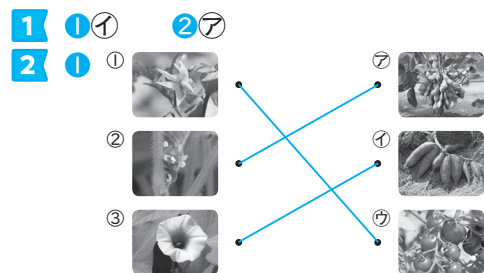
→てびき 1 |年生の ときと くらべて、どんな ところが かわったか 考えましょう。  
2 |年生の とき、上級生に されて うれしかった ことを 思い出し、|年生に やさしくして あげましょう。

2 野さいを そだてよう① 36 ページ

- 1 ①ピーマン ②ナス  
③ミニトマト ④キュウリ  
2 ①イ, ①, ①

→てびき 1 夏に とれる 野さいの れいです。しゃしんから、それぞれの 野さいが どのよ うに みるかが よく わかります。

3 野さいを そだてよう② 37 ページ



- 2 アダイズ ①サツマイモ ②ミニトマト

→てびき 1 ②大きな みが つくように、早い うちに わきめを つみとります。

4 野さいを そだてよう③ 38 ページ

- 1 ①, ①, ア  
2 ①ウ ②イ

→てびき 1 花が さいてから みが できて いきます。  
2 地中 (土の 中) に できる 野さいには、この ほか、ジャガイモなどが あります。

5 町たんけん① 39 ページ



- 2 ア  
3 ①× ②○ ③○ ④×

→てびき 3 町たんけんに出かける 前に、「あんぜんマップ」で きけんな 場しよを かくにんして おきましょう。

6 町たんけん② 40 ページ



- 3 しょうぼうしよ

→てびき 3 しょうぼうしよで はたらく 人の しごとを くわしく しらべて みましょう。

7 町たんけん③ 41 ページ

- 1 ①イ ②エ ③ウ ④ア  
2 ①じどうかん ②はくぶつかん  
3 ウ

→てびき 3 町の 中には、いろいろな 人が くらしやすくなる くふうが あります。⑦の「点字ブロック」で 立ち止まったり、上にもを おいたりしないように しましょう。

8 生きものを そだてよう① 42 ページ

- 1 ①ウ ②イ ③ア  
2 ①カタツムリ ②メダカ ③テントウムシ  
3
- 

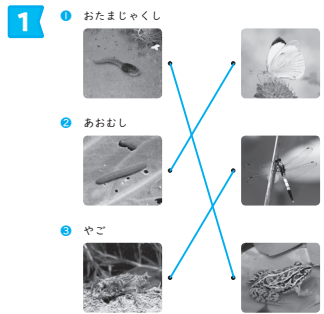
→てびき 1 川や 池、海で 生きものさがしをする ときは、かならず 大人に つきそって もらいましょう。また、毛虫や スズメバチなど、きけんな 生きものには ぜったいに 近づかないように しましょう。

9 生きものを そだてよう② 43 ページ

- 1 ①ア ②イ  
2 ①ミミズ ②キャベツ  
3 ①・①

→てびき 1 ①カブトムシは、けんかを しないよ うに、|つの ケースに |頭ずつ かいます。  
2 ①水が よごれないよ うに 食べのこした えさは、とりのぞきましょう。  
3 ダンゴムシは しめった ところを このみ ますが、ダニが わきやすいので ちゅういし ましょう。

**10** 生きものを そだてよう③ 44 ページ



- 2** セミ  
**3** ㉠, ㉡, ㉢

**→てびき** 生きものの中には、大きく なるまで すがたが かわる ものが います。どのよう に かわって いくか、見て みましょう。

**2** しゃしんは、セミが よう虫から せい虫に かわる ようです。セミは、長い 間 土の 中で よう虫として すごし、夏、そだった ものから じゅんに 地上に 出て、せい虫に なります。

**11** おもちゃを 作ろう① 45 ページ

- 1** ①㉠ ②㉡ ③㉢ ④㉣  
**2**   
ボトルキャップ わゴム 紙コップ かん電池  
**3** ㉡

**→てびき** **2** きりや カッターナイフなどを つか うときは、かならず 大人と いっしょに つ かいましょう。

**3** ふくろロケットは、空気の 力を つかった おもちゃです。ぶんぶんゴマは、ねじれた 糸 が 元にもどる 力、おきあがりこぼしは、 おもりの 力を つかった おもちゃです。

**12** おもちゃを 作ろう② 46 ページ

- 1** ①㉠ ②㉡ ③㉢ ④㉣  
**2** ㉠  
**3** ①〇 ②× ③〇 ④×

**→てびき** **1** 絵を 見て、うまく あそべない 理ゆうを 考えます。それぞれ、①ほに うま く 風が 当たらない、②ゴムが しっかり のびない、③じ石に くつつく ものが ない、 ④空気が もれる、が 理ゆうです。

**13** 秋の 町たんけん 47 ページ

- 1** ㉠  
**2** ①くり ②どんぐり  
**3** ㉠・㉡・㉢・㉣  
**4** ㉠

**→てびき** **3** ここに しめた 虫の 声は、の どから 出る 声では なく、はねを こすり 合わせる ときに 出る 音です。

**14** 町たんけん はっぴょう会 48 ページ

- 1** ①新聞 ②紙しばい ③げき ④きかい  
**2** ①㉡・㉢ ②㉠・㉣

**→てびき** **1** はっぴょうの ほうには、この ほか、パンフレット、クイズ、はいく・しなど が あります。「だれに」「何を」 つたえたい かを よく 考えましょう。

**2** はっぴょうを 聞いて いる とき、しつもん や かんそうを 言いたく なっても、とちゅう で 話しはじめないように しましょう。はっ ぴょうが おわるまで まち、手を あげて、 あてられた 人から 話します。

**15** 大きく なったよ 49 ページ

- 1** ①・② (しょうりやく)  
**2** ①・② (しょうりやく)

**→てびき** 〇で かこむ もんだいは、それぞれ 一つでも 〇が ついて いれば よいでしょ う。

**1** ①話を 聞く 人は、この ほか、近じよの 人、しんせきの おじさんや おばさん、かか りつけの おいしゃさんや かんごしさんなどが 考えられます。

**2** ②できるように なった ことが ふえると、 自分に じしんが つきます。自分に じしん が つくと、新しい ことに ちょうせんした り、いろいろな ことを がんばったりする 気もちが 生まれます。

**16** しあげの テスト 50 ページ

- 1** ①冬 ②夏 ③春 ④秋  
**2** ㉡  
**3** ㉠・㉢・㉣  
**4** ㉡・㉢

**→てびき** **1** かん字で 書いて いなくても、き せつが 合っ て いれば よいでしょ う。①は 雪がっせん、②は 海水よく、③は 花見、④ は いもほりを して いる ようです。

**2** ①は ジャガイモです。  
**3** ㉠は メダカ、㉢は おたまじゃくし、㉣は やご (トンボの よう虫) です。㉡トノサマバッ タ、㉣モンシロチョウ、㉢テントウムシは、野原 で 見つける ことが できます。

**4** 風や 空気の 力を つかった おもちゃに は、この ほか、風わや モビールなどが あり ます。

国語

1 かん字の読み書き①

51  
ページ

- 1 ①ゆき ②いわ  
③どうび ④にく  
⑤なんじ ⑥いけ  
⑦あまど ⑧なつ
- 2 ①半分 ②元気  
③教室 ④午後
- 3 ①数える ②近い  
③止まる ④歌う

→てびき 1 ⑦「あまど」を、「あめど」と読まないように気をつけましょう。

2 ④「午後」を「牛後」と書かないように気をつけましょう。

2 かん字の読み書き②

52  
ページ

- 1 ①い ②でんわ  
③おも ④おお  
⑤ひか ⑥だい  
⑦けいさん ⑧くも
- 2 ①親友 ②市場  
③方 ④野原
- 3 ①弱い ②明ける  
③直す ④遠い

→てびき 1 ④「おおーい」を「おうーい」と読まないように気をつけましょう。

3 ②「明ける」のおくりがなを「明る」としないように気をつけましょう。

③「直」の「目」のぶぶんを、「日」と書かないように気をつけましょう。

3 かん字の読み書き③

53  
ページ

- 1 ①みなみ ②ちち  
③せいかつか ④なが  
⑤か ⑥り  
⑦いもうと ⑧かお
- 2 ①人間 ②当番  
③四角形 ④汽車
- 3 ①古い ②強い  
③太る ④歩く

→てびき 2 ③「四角形」の「角」を同じ読みをもつ「画」と書かないように気をつけましょう。

3 ③「太」を「犬」や「大」などの形のた字とまちがえないように気をつけましょう。

4 だれがどうする

54  
ページ

- 1 ①(竹やぶの)竹のはっぱ  
②ふきのとう  
③あたま、雪  
④(れい)雪をどけよう

→てびき 1 ①「ささやいています。」の前にちゅうもくしましょう。「さむかったね。」「うん、さむかったね。」の前に「竹のはっぱが、」とあります。

②、③、④ふきのとうは、「雪の下にあたまを出し」たので、あたまの上に雪があります。だから、「おもたいな。」と言って「雪をどけようと、ふんばっている」のです。

5 何の話かな

55  
ページ

- 1 ①すみれ  
②どうして、こんなばしょに、さいているのでしょうか。  
③ウ  
④み、(近くの)地面

→てびき 1 ②文のはじめに「どうして」や「なぜ」があるのは、といかけの文です。

③といかけの文のあとに、「すみれは、花をさかせたあと、みをつけます。」とあります。

④たねは、みの中にできます。みがさけて、たねは近くの地面におちます。

6 しゅ語とじゅつ語

56  
ページ

- 1 ①ア ②イ ③ウ ④ア ⑤ウ
- 2 ①細い木がえだをひろげる。  
②東の空があか明るい。  
③弟が紙をかみ丸める。  
④あれはたいようのひかり光だ。
- 3 店の人に聞いてみたら「いちごはもう、う売り切れましたよ。」といわれました。

→てびき 1 ②「やさしい」は、ようすをあらわすことばなので、イの「どんなだ」にあたります。

③「鳥だ」は、「何だ」にあたります。

2 ④この文の中で「何が(は)」にあたるのは「あれは」で、「何だ」にあたるのは「光だ」になります。

**7** いつ どこで 57  
ページ

- 1** ①かおを 見合わせた  
 ② (七色の) 林  
 ③イ  
 ④ (れい) ぼうしを (りょう手で もって、ふしぎそうに) ながめて いました。

**→てびき** **1** ①「えっちゃんときつねがかおを見合わせたとき」、風が ぼうしをとばしました。「～とき」は、時間を せつめいすることばです。  
 ②「七色の 林の方へ とんで いきます。」とあります。「～の方へ」は、ばしよやおきなどを あらわす ときに つかいます。  
 ③えっちゃんたちは、ぼうしを おいかけて七色の 林に 入りました。そこで、すわっている 大男を見ました。  
 ④答えは、「ぼうしを ながめて いた」ことについて 書かれて いれば、正しいです。

**8** どんな ようすかな 58  
ページ

- 1** ①いい におい  
 ②イ  
 ③ (となり町に ひっこして いった) まごたち  
 ④ア

**→てびき** **1** ②手紙を うけとった あげはちよーさんが、「あら、うれしい。」と 言っています。  
 ④はがきを 読んだ 犬さんは、「よかった、よかった。」と 言っています。犬さんは、まごたちが「みんな 元気に くらして」いるので、うれしいと 思っている ことが わかります。

**9** かん字の 読み 書き④ 59  
ページ

- 1** ①としょしつ ②たにがわ  
 ③からだ ④こがたな  
 ⑤とう ⑥てん, まる  
 ⑦もん ⑧ふゆ  
**2** ①春風 ②会社  
 ③来年 ④毎朝  
**3** ①広い ②聞こえる  
 ③合わす ④帰る

**→てびき** **1** ⑤「頭」には、「あたま」という読み方もありますが、どうぶつの 数を 数える ときは、「とう」と 読みます。  
**3** ②「聞こえる」の おくりがなを「聞える」と しないように 気をつけましょう。

**10** かん字の よみ かき⑤ 60  
ページ

- 1** ①きいろ ②こた  
 ③ふね ④とうきょう  
 ⑤はし ⑥まわ  
 ⑦は ⑧すく  
**2** ①読書 ②名前  
 ③公園 ④国語  
**3** ①教える ②新しい  
 ③考える ④楽しい

**→てびき** **1** ⑥「回」には、「かい」という読み方もあります。ことばによって、合う読み方を しましょう。  
**3** ①「教える」の おくりがなを「教る」と しないように 気をつけましょう。また、「教える」「教わる」のように、おくりがながかわると 読み方も かわる ものがあります。

**11** しを 読もう① 61  
ページ

- 1** ①やね・つち・かわ・はな  
 ② (れい) だれとも なかよし  
 ③やね  
 ④ア

**→てびき** **1** ②「どんな うたでも してる」の前に「あめは だれとも なかよして、」とあります。だれとも なかよしなので、やねや つちの うたも しているのです。  
 ④この しは、どの 行も 同じ リズムです。雨の 音を あらわす ことばを、音を そうぞうしながら 楽しく 読みましょう。

**12** どんな じゅんじよかな① 62  
ページ

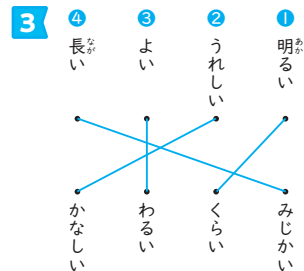
- 1** ① (れい) そだって いきます。  
 ② (れい) じゅくして たねが できた  
 ③はれた  
 ④ (右から じゅんに) 4, 1, 3, 2

**→てびき** **1** ①文しょうの はじめに「花が しばむと、みが そだって いきます。」とあります。答えは、同じような いみの「そだつ。」や「そだって いく。」でも 正しいです。  
 ②「くきは おき上がって、たかく のびます。」の前に「みが じゅくして たねが できると、」とあります。答えは、「～とき。」につづくように 書きましょう。みと たねが どう なるかを 書いて いれば 正しいです。  
 ④わた毛が ひらき、風が あたると、わた毛は ふきとばされます。遠くまで 行って わた毛は 土に おちます。やがて、たねが めを出します。

13 なか間の ことば・はんたいの ことば 63 ページ

- 1 ①つかむ  
②ほうる

- 2 ①ウ  
②ア



- 4 ①○  
②×  
③○

→てびき 1 どんな うごきを あらわす ことばかを かんがえましょう。にた いみの ことばか どうかを たしかめる ときは、——の 線の ことばと 入れかえて みます。いみが かわらなかつたら、にた いみの ことばです。

2 ②ウ「まける」の はんたいの いみの ことばは、「かつ」です。

3 はんたいの いみの ことばは、一つの グループとして おぼえましょう。

4 はんたいの いみの ことばは、一つとは かがりません。「(ともだちの) 家に 行く」「(ともだちの) 家(から) かえる」に したり、「(ともだちの) 家(に) 行く」「(ともだちが) 家に 来る」に したりすると、「行く」と「かえる」、「行く」と「来る」が それぞれ はんたいの いみで ある ことが わかります。

14 かん字の 読み 書き⑥ 64 ページ

- 1 ①くろ ②ちょうない  
③あき ④てんちょう  
⑤てら ⑥こうさく  
⑦ひる ⑧くび

- 2 ①麦茶 ②組  
③弓矢 ④土地

- 3 ①買う ②通る  
③食べる ④高い

→てびき 2 ③「矢」を「失」と 書かないように 気をつけましょう。

3 ②「通る」の おくりがなを「通おる」と しないように 気をつけましょう。

15 かん字の 読み 書き⑦ 65 ページ

- 1 ①せん ②け  
③こう ④おとうと  
⑤さと ⑥じぶん  
⑦な ⑧につき

- 2 ①今週 ②画用紙  
③一万 ④夜

- 3 ①知る ②売る  
③同じ ④細い

→てびき 1 ③「交」の 読み方は「こう」だけでは ありません。「交じる」や「交わる」と 読む 場合も あります。

3 ④「細い」を「細そい」と しないように 気をつけましょう。また、「こまかい」と 読む ときは、「細かい」と 書きます。

16 どんな 気もちかな① 66 ページ

- 1 ①ウ  
②ア  
③(れい) おれの うちに きなよ  
④(れい) 生まれて はじめて 「やさしい」と 言われた

→てびき 1 ①すぐ 前で、きつねは、「お兄ちゃん? やめて くれよ。」と 言っています。「お兄ちゃん」と 言われた ことばは はずかしいと 思っている ことが わかります。

②きつねは、「はらぺこきつね」でした。そして、「やせた ひよこ」が やって きた とき、すぐには たべませんでした。「やせて いるので 考えた。太らせてから たべよう」と あるので、アが 正かいです。きつねは、ひよこを「がぶりと やろうと」思っていたので、アの「こわい。」や ウの「かなしい。」は、てきせつでは ありません。

③ひよこは、「どこかに いい すみか、ないかなあ。こまってるんだ。」と 言っています。すみかを さがして いる ひよこに きつねは、「うちに きなよ。」と さそったので、ひよこは こまってる じぶんを たすけて くれた きつねを「やさしいねえ。」と 思ったのです。

④すぐ 前に「~ので」と あります。「ので」は、理ゆうを あらわす ひょうげんの 一つです。その 前に「すこし ぼうっと なった」理ゆうが 書かれています。きつねは、「生まれて はじめて 『やさしい』なんて 言われた」から、「ぼうっと なった」のです。答えは「~から。」に つながるように 書きましょう。

**17** どんな じゅんじょかな② 67  
ページ

- 1** ①春  
 ② (れい) 黄色から 黒っぽい 色。  
 ③ (れい) (ぐったりと) じめんに たおれて しまいます。  
 ④ (右から じゅんに) 2, 1, 5, 3, 4

**→てびき** **1** ①きせつを あらわす ことばを さがします。「春に なる」と あります。  
 ②「その 花は しばんで、だんだん 黒っぽい 色に かわって いきます。」と あります。「その 花」とは、たんぽぽの ことです。はじめが 黄色、つぎに 黒に なる ことが 書いて あれば、正かいです。  
 ③「そうして、」は、花が しばんで、だんだん 黒っぽい 色に かわって いく ことを さして います。じめんに たおれる ことが 書いて あれば、正かいです。  
 ④五つの 文が、文しょうの どこに 書いて あるかを さがします。  
 まず、きれいな 花が さきます。  
 その つぎに、花が しばんで、黒っぽい 色に なります。  
 三ばんめに、花の じくが たおれます。  
 四ばんめに、たねに えいようを おくりま す。  
 さいごに、たねが 太ります。

**18** つながり を みつけよう 68  
ページ

- 1** ①地面におちたまま  
 ②ねが 地面に ささらなかった  
 ③ (れい) かれて いました。  
 ④イ

**→てびき** **1** ①「地面に おちた ままの どんぐりは、その まま かわいて だめになつて」と あります。ますの 数に 合わせて、八字で 書きぬきましょう。「書きぬきましよう。」と 書いて ある ときは、文しょうの とおりに 書きます。ことばを かえたり、しょうりやくしたりしては いけません。

- ②「～から。」に つながるように 書きましよう。  
 ③「かれた。」など、同じ いみの ことが 書かれて いれば 正かいです。  
 ④□には 文と 文を つなぐ はたらきの ある ことばが 入ります。□の 前には、「すあな ふかく うめられた どんぐり」が かれた ことが 書かれて います。□の あとは、「あさく うめられた どんぐりの 中で、食べわすれられた ものから」めが 出た ことが 書かれて います。前と あとで はんたいの ないようが 書かれて いるので、「ところが」が 入ります。「ところが」は、はんたいの ないようをつなぐ はたらきの ある ことばです。アの「たとえば」は、れいを出して せつめいする ときにつかいます。ウの「だから」は、前の ないようの 理ゆうや くわしく せつめいする ときにつかいます。

**19** どんな 気もちかな② 69  
ページ

- 1** ①なきたいのか おこりたいのか  
 ②ウ  
 ③イ  
 ③ (れい) (すみれちゃんが 水を やったばかりの) コスモス。

**→てびき** **1** ①「それで、じつと、ノートを見て」という 文の 前に、ノートを見て いた 理ゆうが 書いて あります。

- ②はじめの 文に、「なきたいのか おこりたいのか 分かりませんでした。」と あります。また、すぐ あとに「それが 何か、知りたかった わけでは ありませんでした。」とも あります。かりんちゃんを おもしろく 思っ て いたり、やさしいと 思っ て いたりする ようすは ありません。  
 ③「何よ、これ。」と いう 前に、すみれちゃん は、かりんちゃんの 絵を 「ぐちゃぐちゃのもの」と 思っ て いる ことが 書かれて います。かかれて いるのは お花だと 思っ て いない ことが わかります。  
 ④「何よ、これ。」と 聞かれて かりんちゃん は、「お花。」と 答えて います。「そこには、すみれちゃんが 水を やったばかりの コスモスが さいて います。」と あります。

**20** かん字の 読み 書き⑧ 70  
ページ

- |                |       |
|----------------|-------|
| <b>1</b> ①さい   | ②はは   |
| ③こえ            | ④ほし   |
| ⑤きた            | ⑥そと   |
| ⑦こめ            | ⑧こころ  |
| <b>2</b> ①牛, 馬 | ②西, 道 |
| ③兄, 姉          | ④鳥, 羽 |
| ⑤海, 行          | ⑥魚, 絵 |
| <b>3</b> ①切れる  | ②引く   |

**→てびき** **2** ③「姉」は、形の なかまの かん字の「妹」と まちがえないように 気をつけましよう。

21 しを 読もう② 71 ページ

- 1 ①ごろごろ  
②たまご・けいと  
③イ ④ア

→てびき 1 ②「たまご ころころ」からは、たまごか、たまごの ような 形<sup>かたち</sup>のものをころがして あそんで いる ようすが そうぞうできます。  
③かいぬしに よばれても 知らない 顔<sup>かお</sup>をして、つんと している ようすが そうぞうできます。  
④ミルクを 出されて よろこんで にゃんと 鳴<sup>な</sup>いて いる ようすが そうぞうできます。

22 どんな じゅんじよかな③ 72 ページ

- 1 ①四  
②(馬の) あし  
③(馬の) おなか・(馬の) 首・(馬の) せなか  
④まず、つぎに

→てびき 1 ②「これは、馬<sup>うま</sup>の あしに なります。」と あります。「これ」は、「のこった 一つ」を 半分<sup>はんぶん</sup>に 切り分けた ものを さします。  
③空<sup>あ</sup>きばこを 四つに 切り分け、一つは あしに なり、ほかの 三つが 馬<sup>うま</sup>の 体<sup>からだ</sup>に なります。「つぎに、馬<sup>うま</sup>の 体<sup>からだ</sup>を 作<sup>つく</sup>ります。」と あり、この あとに、三つの ぶひんを どう するかが 書<sup>か</sup>かれて います。馬<sup>うま</sup>の 体<sup>からだ</sup>の どの ぶぶんかを さがしましょう。  
④「まず」は、一ばんめを あらわす ことばです。「つぎに」は、二ばんめを あらわす ことばです。

23 しめす ことば 73 ページ

- 1 ①(コンセントに さしこむ) プラグの 先  
②(コンセントの 中の) 出<sup>で</sup>っぱり  
③(れい) 出<sup>で</sup>っぱりが プラグの あなに 引<sup>ひ</sup>っかかるように なって いる こと。  
④いらぬ水を外に出す  
⑤(れい) (ねが) くさる こと。

→てびき 1 ①「これ」は、前<sup>まえ</sup>の 文<sup>ぶん</sup>に ある 「あな」を さして います。  
③「どういう ことですか。」と いう もんだいには、文<sup>ぶん</sup>の おわりに 「～こと。」を つけて 答<sup>こた</sup>えましょう。  
④「これは、いらぬ 水<sup>みづ</sup>を 外<sup>そと</sup>に 出<sup>で</sup>す ための あなです。」と あります。この 文<sup>ぶん</sup>の 「これ」は、うね木<sup>うねぎ</sup>ばちの あなを さします。  
⑤答<sup>こた</sup>えは、「ねが くさる こと」に ついて 書<sup>か</sup>かれて いれば、正<sup>ただ</sup>かいです。

24 ようすを あらわす ことば 74 ページ

- 1 ①ざあざあ ②ぼつぼつ ③しとしと  
④とぼとぼ ⑤すたすた ⑥のそのそ  
2 ①どんより ②からりと  
3 ウ

→てびき 1 ようすに ぴったり 合<sup>あ</sup>う ことばを えらぶように 気<sup>き</sup>を つけましょう。まちがえると、言<sup>い</sup>いたい ことばが あいてに つたわらない 文<sup>ぶん</sup>に なります。  
3 「もみじのような 手<sup>て</sup>」は、赤<sup>あか</sup>ちゃんの手<sup>て</sup>を さして よく つかう ひょうげんです。

25 大<sup>おほ</sup>じな ことば 何<sup>なに</sup>かな① 75 ページ

- 1 ①楽しめる、くふうされて きた  
②(れい) あそぶ ところ (の こと)・なかま (の こと)  
③だれもが 「楽しかった。」と 思<sup>おも</sup>える

→てびき 1 ①さまざま あそび方<sup>かた</sup>に ついて 書<sup>か</sup>いて ある ところを さがしましょう。  
②きまりを 作<sup>つく</sup>る ときについて 書<sup>か</sup>いて ある ところを さがしましょう。「あそぶ ところや なかまの ことばを 考<sup>かんが</sup>えて きまりを 作<sup>つく</sup>れば」と あります。  
③せつめい文<sup>ぶん</sup>には、ふつう、さいごに ひっしや(文<sup>ぶん</sup>しょうを 書<sup>か</sup>いた 人<sup>ひと</sup>)の 考<sup>かんが</sup>えを まとめた 文<sup>ぶん</sup>が 書<sup>か</sup>いて あります。さいごの 文<sup>ぶん</sup>には、「あそびおわった とき、だれもが 『楽しかった。』と 思<sup>おも</sup>えるような おにごっこが できると いいですね。」と あります。

26 どんな ようすや 気<sup>き</sup>もちかな 76 ページ

- 1 ①かたかた、かたかた  
②(れい) 白<sup>しろ</sup>馬<sup>うま</sup>が 帰<sup>かえ</sup>って きた  
③スーホは、はねおきて かけて いました。  
④イ

→てびき 1 ②おばあさんは、「白<sup>しろ</sup>馬<sup>うま</sup>だよ! うちの 白<sup>しろ</sup>馬<sup>うま</sup>だよ!」と 言<sup>い</sup>って います。  
③スーホは 「おきた」だけではなく、「はねおきて」 います。いそいで いる ことが わかります。  
④「はを くいしばって つらいのを こらえながら」と あります。スーホは、ひどい きずを うけて いる 白<sup>しろ</sup>馬<sup>うま</sup>が かわいそうで、つらいと 思<sup>おも</sup>って いる ことが わかります。

**27** 大じな ことは 何かな② 77 ページ

- 1 ① 一日のしごとのおわり
- ② きょう あった できごと・どうぶつを 見て 気が ついた こと
- ③ (れい) 同じような びょうきや けがが あった とき。
- ④ もち出さない

**→てびき** 1 ①、②はじめての 文の おわりに 「日記に 書きます。」と あります。その 前に いつ 書くのか、どんな ことを 書くのかが 書かれて います。ますの 数に 合わせて 書きましよう。

③ 「毎日、きろくを して おくと」と あります。これは、日記を 書いて いる ことを さして います。もんだいに 「どんな とき」と あるので、文の おわりに 「～とき。」を つけて 答えましよう。

④ 理ゆうは、「だから」や、「～ため」と いう ことばを つかって せつめい されて いる ことが よく あります。「だから」や 「～ため」を さがしましよう。

**28** しあげのテスト① 78 ページ

- 1 ① 姉が 手紙を 書く。
  - ② くちびるが とても 赤い。
  - ③ おたまじゃくしは かわるの 子ともだ。
  - ④ たびびとが ばらの 谷へ 行く。
  - ⑤ あしたは 妹の たんじょう日だ。
- 2 朝 目を さますと  
「外は、雪が つもって いるよ。」  
と 言われました。
- 3 ① ぼそぼそ ② しくしく ③ にこにこ

**→てびき** 1 ⑤ 「妹の」は 「たんじょう日」を くわしく せつめいする ことばで、じゅつ語 ではないので 気を つけましよう。

**29** しあげのテスト② 79 ページ

- 1 ① かなしさと くやしきで、スーホは いくば んも、ねむれませんでした。
- ② (れい) がつきを 作って ほしい。
- ③ (れい) (いつまでも スーホの そばに いて、) スーホを なくさめて あげたい
- ④ ゆめから さめると すぐ

**→てびき** 1 ① スーホの 気もちを あらわす ことばを さがしましよう。「かなしき」や 「くやしき」は、だいじな 白馬を うしなった スーホの 気もちが あらわれて います。そして、スーホは、何日も ねむる ことが できないほど、かなしく、くやしい 気もちでした。

② スーホの ゆめの 中で、白馬は スーホに 話しかけて います。白馬の ことばから スーホに して ほしい ことを 読みとりましよう。「わたしの ほねや、かわや、すじや けを つかって」と あります。これは、「自分の からだで」と いいかえる ことが できます。「自分の からだで」に つながる ように 書きましよう。

③ 「そう すれば、わたしは、いつまでも、あなたの そばに いられます。」と あります。「そう すれば」は、白馬の からだで がつきを 作る ことを さします。

④ 「スーホは、ゆめから さめると すぐ、その がつきを 作りはじめました。」と あります。

**30** しあげのテスト③ 80 ページ

- 1 ① (木と 石と だろを つみあげて 作った) す
- ② 水の中
- ③ (右から じゅんに) 3, 1, 2
- ④ (れい) およぎの 上手な どうぶつで ないと、けっして すの 中に入ること できないから。

**→てびき** 1 ① しめす ことばは、たいてい すぐ 前に 書かれて いる ないようを さして います。すぐ 前の 文には、ビーバーの すの ことが 書かれて います。

② 「入り口」に ついて 書かれて いる ところを さがしましよう。「すの 入り口は、水の中 あり」と あります。

③ 三つの 文が どこに 出て くるかを さがしましよう。さいしょの 文に 「ダムが できあがって」と あります。つづいて、「その 内がわに みずうみが できます。」と あります。その つぎの 文に 「その みずうみの まん中に、すを 作ります。」と あります。

④ 前の 文に 「すの 入り口は、水の中 あり、ビーバーのように、およぎの 上手な どうぶつで ないと、けっして すの 中に入ること できません。」と あります。答えは、「およげない どうぶつは すの 中に入ることが できないから。」など、同じ いみで あれば、正かいです。もんだいに 「なぜ」と あるので、文の おわりは、「～から。」や 「～ため。」に しましよう。